

子コンベンションセンターであった。産地表示や栽培履歴など「食の情報化」が進む中、情報公開の幅を産地から小売店までの流通過程にまで広げようとする試み。目的や導入の効果について関係者が説明した。

産学でつくる農産規範基準研究会(代表・中嶋康博東京大学助教授)が主催。同会は国の補助を受けて本年度から、システムの実証試験に取り組み、説明会には県内の農家や市場などの関係者百五十人が参加した。

市場関係者らに システムを説明

農産物情報公開試験

農産物情報を消費者が簡単に確認できる「ユビキタス食の安全安心システム」の事業説明会が十四日、JR米子駅前の米

子コンベンションセンターであった。産地表示や栽培履歴など「食の情報化」が進む中、情報公開の幅を産地から小売店までの流通過程にまで広げようとする試み。目的や導入の効果について関係者が説明した。

産学でつくる農産規範基準研究会(代表・中嶋康博東京大学助教授)が主催。同会は国の補助を受けて本年度から、システムの実証試験に取り組み、説明会には県内の農家や市場などの関係者百五十人が参加した。

同システムは、農産物の生産から消費に至るまでの情報をコンピュータで一括管理し、消費者が出荷日など段階ごとの取り扱い状況を確認できる。説明会では、携帯電話の機能などを用いて情報を簡単にチェックできるほか、仮に安全性に問題があった場合、容易に所在が確認できるメリットなどが強調された。

システムの実証試験には全国十六カ所の市場が参加し、鳥取県では東亜青果(米子市米原九丁目)が取り組んでいる。